

ボルシェならではのアグレッシブな表情を見せつつ、エレガントな4シーターサルーンのオーラも纏う。そんなパナメーラならではの独自の存在感は見るものを瞬時に魅了する。

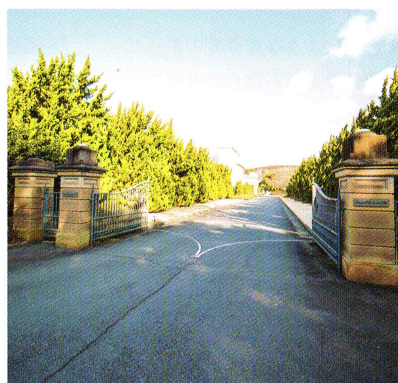
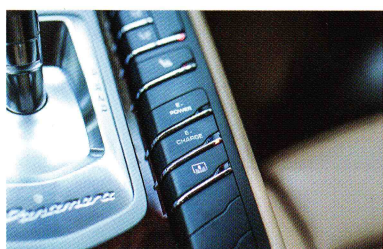
## 4シーター&スポーツの圧倒的な存在感

1月はバームスプリングスを巡る海外取材に出かけていた。有名コースが連なるゴルフ天国だが、その代表格ともいえる『PGA WEST ジャック・ニクラス トーナメントコース』を訪れた時、純白のボルシェ パナメーラがバックドロップエリアに入ってきた。砂漠地帯の強い光線の中で輝く姿はまた格別で、まさに他を圧倒する存在感を漂わせていた。

あの完璧な世界を体現すべく、乗り込んだの

は<ボルシェ パナメーラS E-ハイブリッド>。旅先は、爽快なドライブと春の光を求めての箱根山エリア。まずは知る人ぞ知る高級プライベートコース『グランフィールズ カントリークラブ』を目指す。当日は首都高からも富士の雄姿が伺えるパーフェクトなドライブ&ゴルフ日和。ゆとりある4シーター空間でリラックスクルージングを堪能しながら、東名高速を西へと進んでいく。大井松田インターを過ぎ、コーナ

ーがタイトな右ルートを選択してワインディングゾーンに入っても、まだまだウォームアップのようなもの。LAで仕入れた最新スイング理論を談議しつつ、パナメーラもそのスイングのごとく安定した力強い走りで駆け上がっていく。ロー&ワイドのボディは路面に吸い付き、車自らがコーナーをクリアしていくような感覚が味わえる。室内空間にはボルシェならではの厚みのあるエンジン音が心地よく響くのみ。



## ゴルフシーンにフィットする知的なパートナー

そして富士山の絶景に抱かれながら、ほどなく新東名の長泉沼津インターで高速を降りる。「もう!?!」。助手席に座るスタッフが思わず声を上げたが、100kmを超える長距離移動も束の間。これは物理的な時間の話ではなく、ストライドの大きいアスリートや競走馬のフットワークのごとく、眼前に広がる風景はゆったりと流れていきながら実は速いという、独特の「時間の流れ」に身を委ねることができるからだ。

高速走行の後もくポルシェ パナメーラS E-ハイブリッドの醍醐味の一つで、満充電であれば、燃料を全く使わずに36kmの走行が可能。グランフィールドは料金所を過ぎて約15km。スイッチ一つで電気動力のみによるドライブも選択することもできる。燃料を使用する高速走行中に充電することができるので、高速道路でのロングドライブが多いゴルフシーンにおいては、よりユースフルにエレクトリック走行を楽

しむことができる。

環境に優しいCO2排出量ゼロといっても最高速度は135km/hという余裕のパフォーマンス。ポルシェならではのシャープな走行性能はそのままなのだ。4シーターのスポーツカーがエンジン音なく、軽快に緑のトンネルを抜けていく感覚もまた新鮮。そしてくポルシェ パナメーラS E-ハイブリッドは風格に満ちたクラブハウスのアプローチへと静かに入っていく。



### 想像を越えた、壮大かつ細やかなもてなし

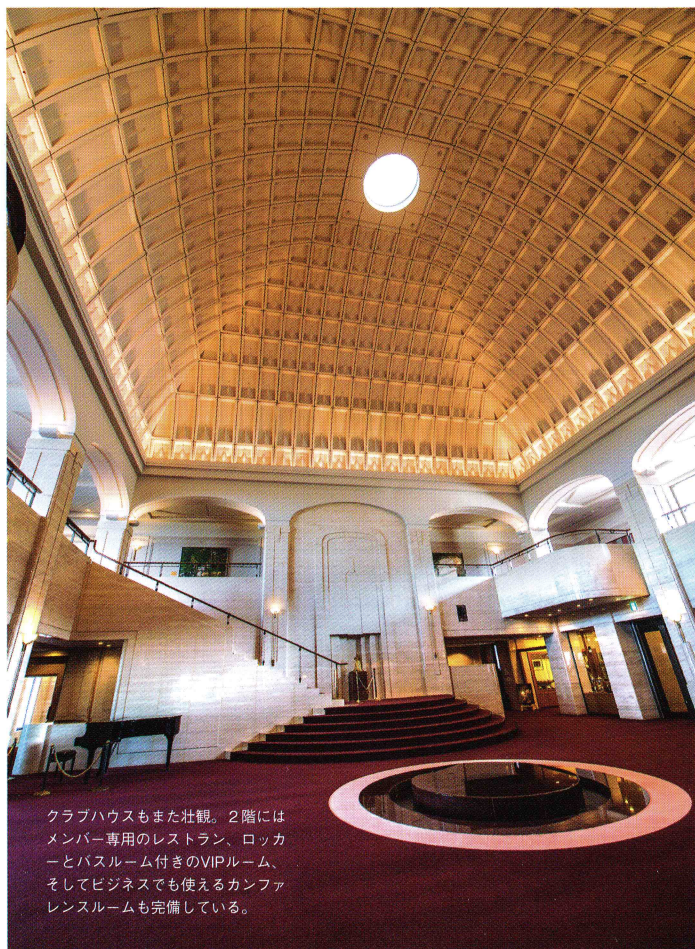
都心から『グランフィールズ カントリークラブ』へは、首都高～東名高速～新東名～伊豆縦貫道～東海道と、全て幹線道路にダイレクトに繋がっており、東海道を折れてからもわずか2kmでコース到着。実にストレスフリーなアクセスだ。箱根峠からも15分なので、ラウンド前に＜パナメーラS E-ハイブリッド＞のワインディングでのスポーティな走行性能を楽しみたいなら、距離的にも最短な東名高速～小田原厚木道路～箱根新道経由というルートもおすすめ。

さて、海外の邸宅のような重厚感のあるゲート抜けると、威風堂々たる石造りのクラブハウスが姿を現わす。建物内に入れば聖堂のような吹き抜けの大空間。国内外の政治家やセレブリティのもてなしの場としても重用されてきたプライベートクラブだけあって、ここにもまた独自の贅沢な時の流れがある。コースに出ると再びの感動。庭園のごとき美しいコースが広がり、伊豆の山並み、青い駿河湾、そして富士山に囲まれた壮観を一望することができる。加えて

「回遊庭園」としての美しさも自負するコースは、4月には満開の桜、秋は紅葉に彩られた絶景がゴルファーをもてなしてくれるという。撮影中も「ここも一面桜です」の説明が幾度となく繰り返され、桜の時期の再訪を何と少しでも叶えたい。

また、コースの茶屋でも格別のもてなしが。アウトコースは本格茶室を備えた数寄屋造りで、抹茶と菓子が供される。窓からは絵画のごとく切り取られた風景の中に聳える富士山！





クラブハウスもまた壮観。2階にはメンバー専用のレストラン、ロッカーとバスルーム付きのVIPルーム、そしてビジネスでも使えるカンファレンスルームも完備している。



## 名門コースにふさわしい洗練と成熟

インコースでは囲炉裏を囲み、2月のラウンドには嬉しい甘酒でほっこり。当日は休日であったがプレーヤーは20組。各ホールに1組といった進行で、プレーだけでなくゴルフの1日をゆったりと楽しむことができる。これもまたプライベートコースならではの時間の流れだ。

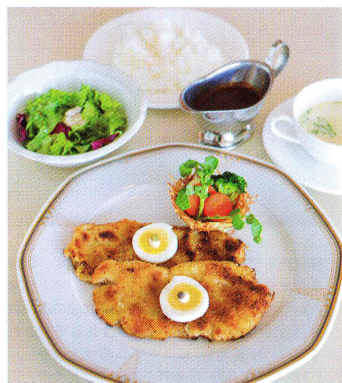
コースのフェアウェイは広く、駿河湾を望む打ち下ろしのホールでは豪快なショットの披露のしどころで、アップヒルのホールでは正確な番手選びがポイントとなる。そしてスコアメイ

クの鍵となるのが、高速グリーンの攻略。ピン奥につけてしまった時のアプローチやパットは最新の注意が必要で、同じグリーンでもピン位置によって狙いどころががりりと変わってくる。

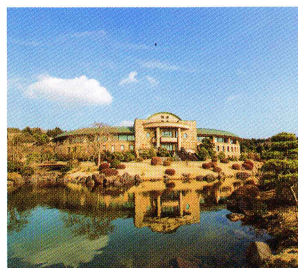
また豪快なレイアウトのショートホールも名物の一つ。7番の谷越えは城のような岩壁がグリーンをガードし、11番では庭園のような景観の池の向こうにあるグリーンを狙う。どちらもたつぷりと距離があり、ティグラウンドで絶景を前にした時のプレッシャーが堪らない。

当然ながら、こだわりのもてなしは食にも。シェフは洋食出身ながら、レストランのさらなる充実を目指し、コースの理事でもある道場六三郎氏のもとで和食の極意を追求すべく指導を仰ぐ。結果、老舗料理店のごとき本格的な洋食と、繊細な和食の両方が楽しめることとなった。

想像を超える現実と感動の連続の『グランフィールドズ カントリークラブ』。ラウンドにはメンバーの紹介が必要となるが、一度いや四季折々、何度でも体験したいプラチナコースだ。



左から「仔牛のカツレツミラノ風 デミグラスソース」、「グランフィールドズの貴婦人」。上は本格茶室を兼ね備えた数寄屋造りの茶屋で供される抹茶と菓子。食事もお茶もゆったりと。



グランフィールドズ カントリークラブ

〒411-0000 静岡県三島市五輪4716  
tel:055-976-3111  
<http://www.grandfields-cc.com/>

2015  
SPRING & SUMMER  
DE MEMBER'S ISSUE  
VOL.7



**double eagle**



早く来い来い、ゴルフシーズン。